

## 多剤耐性結核菌以外の結核菌の輸送を運搬会社に委託する場合

2013年1月8日

検査依頼を結核研究所に Mail、電話などで行う  
※結核菌を送る前に必ず結核研究所に連絡する。

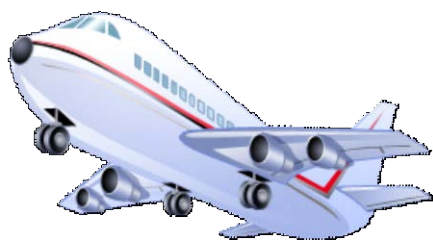
運搬用容器は自施設のものを使うか、  
結核研究所に国連規格容器を依頼する

感染症法に従って国連規格容器の3次容器まで  
ラベリング（UN2814用）・マーキング・必要な  
記入事項全て完成させる

感染性物質の運搬のできる業者に依頼する

例 航空貨物など

多くの宅配業者は現在までのところ感染性物質の運搬を  
行っていないが、できるところもあり、確認する。



結核菌（カテゴリーA）は

・日本通運（日通航空：03-5445-3690）

または、病院・保健所などの車も可能

詳しくは以下を参照


## 多剤耐性結核菌以外の結核菌の運搬を

### 運搬会社に委託 2013年1月8日

以下は結核研究所の例であり、容器への表示などは荷送人の責任で行う

運搬の梱包に関わるリスク管理責任は  
荷送人（荷主）または検査を依頼した施設にある



① 事前に結核研究所  に電話する

VNTR / RFLP / BCG との鑑別

電話：042-493-5773

薬剤感受性試験/サーベイランス等

電話：042-493-9762



② 輸送用容器を準備する：結核研究所に依頼するか、荷送人施設で用意する。



③ 結核研究所に依頼する場合、連絡用紙に必要事項を記入の上 **FAX**、又は mail すると輸送用セット（国連規格容器など）が着払いで送られてくる。

事前に運搬会社と電話で打ち合わせ、荷の引き取り日時を決める。

ドア to ドアが基本



④ 安全キャビネット内にて被検株の培地全体からコロニーを満遍なくかきとり、輸送用培地面に塗り広げず、菌塊が見えるように接種し、培養せずに送る。培養が必要なときは結核研究所において行う。

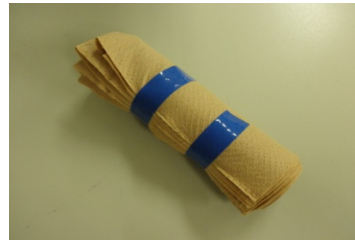
※安全な運搬のため、必要以上の菌量を送らない。



⑤ 輸送用培地（1次容器）が破損したときに内容物を十分吸収できる吸収材に包み、ビニール袋に入れ、クッションとなるもので保護し、2次容器(プラスチック容器)内に固定する。



固形培地は吸収材で包む



液体培地はそれをさらにペーパータオルで包む

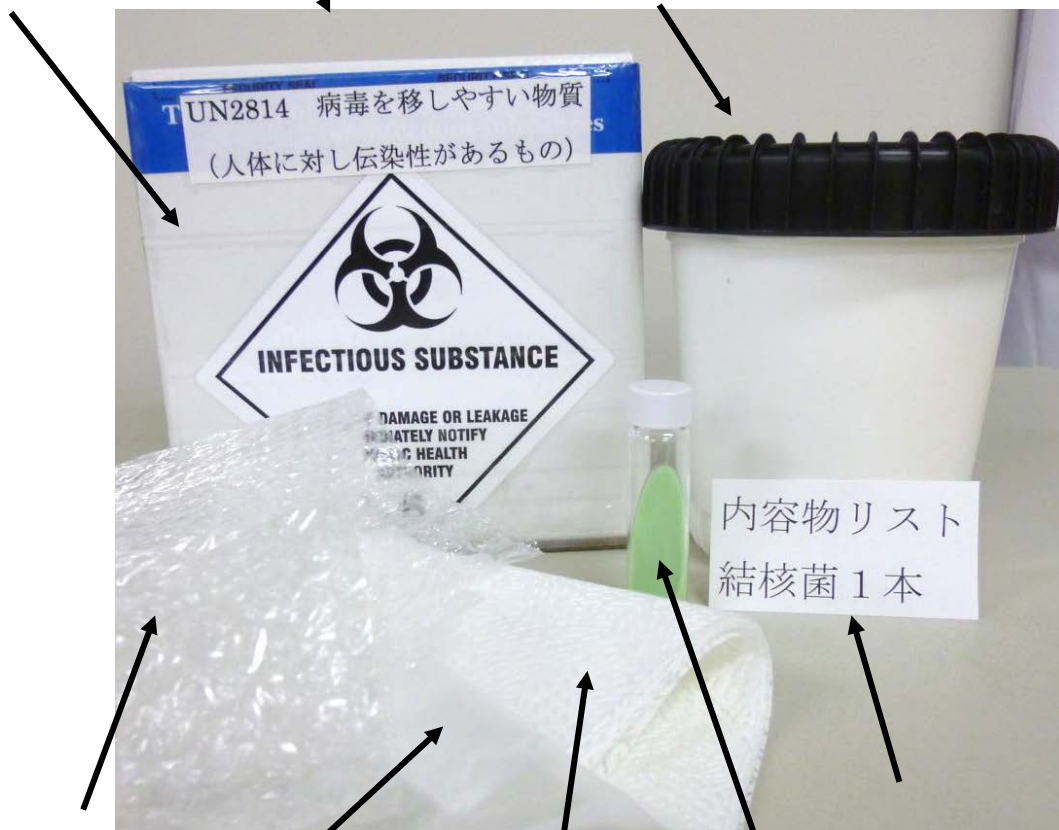


### 結核研究所から送られてくる輸送用セットの例

※内容物は科によって異なることがある

3次容器（ダンボール製紙箱）

2次容器（プラスチック製）

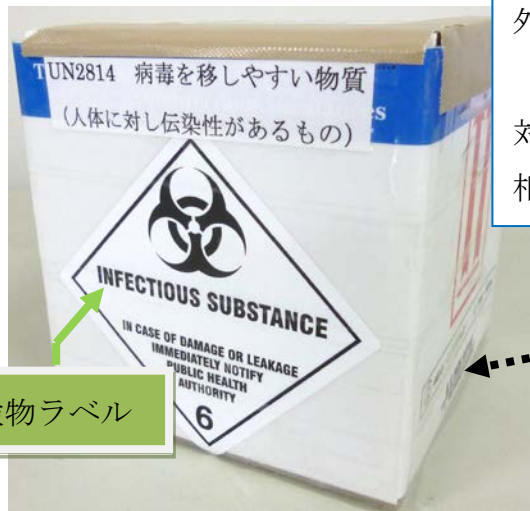


クッション 1次容器用ビニール袋 吸収材 1次容器 内容物リスト


※リストは荷送人が準備する

※ 2次容器と内容物リスト（又は検査依頼書）を3次容器（紙箱）の内側に入れる。

⑥ 国連規格容器 3次容器の外側を完成させる

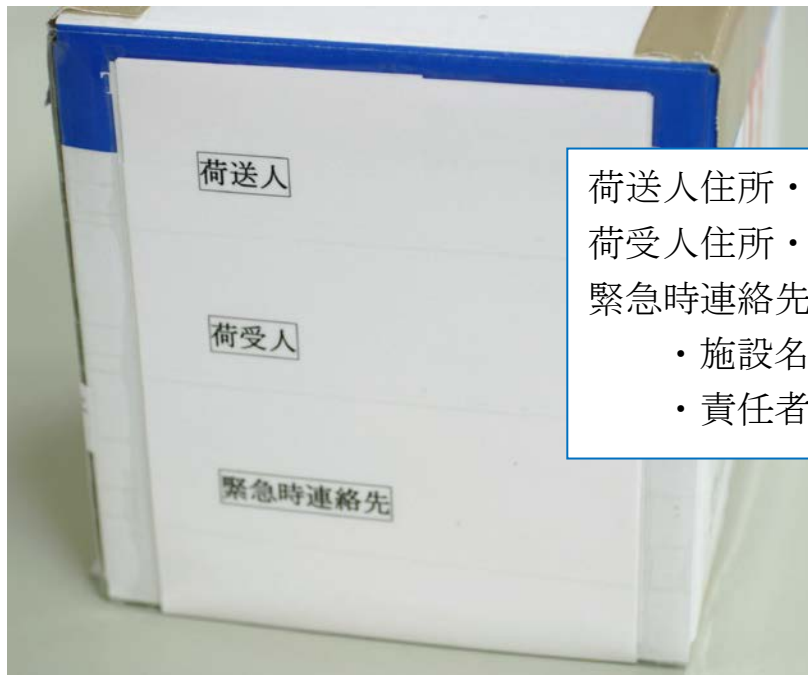


外装容器表面に危険物ラベルを貼り、  
「UN2814 病毒を移しやすい物質(人体に  
対し伝染性があるもの)」を表記  
相対する 2 側面に天地無用ラベルを貼る

国連シンボルマーク  4 G × × ×

危険物ラベル

箱の裏側の例



荷送人住所・施設名・氏名  
荷受人住所・施設名・氏名  
緊急時連絡先：  
・施設名  
・責任者氏名（電話番号）

緊急時連絡先の責任者は緊急時連絡網（紛失または事故による水漏れ等は 110 番通報など）と消毒などの知識を有し、荷送人・荷受人・検査依頼者が事前に話し合っ



※ 容器はラベルやマークなどが全て外から見えるなら透明なビニール袋に入れることもできる。



日通航空の送り状の例

※ 日通航空は感染性物質の航空輸送が可能である。

施設名・部署・氏名まで記入

土・日・祝日は配達できないと書く  
(結核研究所が休みのため)

日通の場合、03-5445-3690 に電話するとドア to ドアで荷を取りに来る

基本的に配達是最速で行うため即日配達であるが、集配時間等による。